

令和7年12月5日

令和7年度 第2回 学校運営協議会

委員 参加

資料確認

- 1 学校長挨拶 第2回出席いただき感謝いたします。病院にいる子どもたちは見舞いに来る人の体調の変化に自分の身体の状況が影響を受けやすい。インフルエンザ等が蔓延するのを聞くと影響を受ける子どもが非常に多くなっていく。校内見学等で、実際の子どもの様子を見た上でご意見をいただければよかったです。本日は忌憚のない意見をいただきながら、学校運営に生かしていきたいと考えている。

大阪教育大学 教授 平賀 健太郎 様

大阪はびきの医療センター 小児科主任部長 亀田 誠 様

羽曳野市立羽曳が丘小学校長 前田 幸章 様

校長 本校の学校運営だが、大きなトピックとして大阪急性期・総合医療センター分教室の廃止がある。2年ぐらい前から申しであり、急性期・総合医療センター、いわゆる大きな事故や急病の患者が入院する子どもの頻度が少ないということで、3月31日に病院と大阪府教育庁との覚書の更新の時期となり、更新をしないということが決まり、教育委員会会議で今年度で分教室が廃止といういうことになった。分教室としての機能はなくなり、訪問教育という形で学習保障していくという形になる

各分教室より報告（※プレゼンソフトを使い表示しながら教育活動を報告した。）

実体験、学校行事子どもが企画、運動会も教員と子どもで参加、子どもたち発信でとりくむことが主流になってきている。作業学習の作品、病棟の関係者に感謝の気持ちを込めて手紙等を渡す。訪問教育でも子どもの作品制作に取り組んでいる。

座長 感想等ありますか

亀田委員：それぞれの教室にあった、子どもの実態にあわせた教育活動がわかった。

医療だけでは、解決できない問題を、先生方が良く考えて活動していることがわかった。医療関係者との橋渡しの活動もありがたい。

課題としてこの活動をどのようにして原籍校に返すかという事が残っていると思う。ギャップが生じないように、スムーズに、退院後とその先の人生にどうつなげていくかという課題が明確になったように思う。

校長 阪南マルシェなどでは、病棟と学校での子どもの顔が違うので、それを見てもらう良い機会になる。学校行事の招待状を委員の皆様にも事前にお渡しして、実際に見ていただければよかったと思った。母子分教室で始まったように、職業教育や作業学習にとりくめる分教室を広げていきたいと思う。作品もデザインも上手にできて、オリジナル性もあり、作品を手にとってみたときに、子どもたちが嬉しそうにしている顔も見ることができる。

前田委員：実体験、これからもっと大事になる、子どもたちからの発信が大切、阪南マルシェを立ち上げるきっかけを教えてほしい。子どもたちは何がきっかけで変わるかわからない。そういう意味で体験というのは非常に大切。また残念ながら行事当日に体験を十分にできなかつたり、行事本番直前に入級してきた子どもへのフォローをしていること等あれば、おしえてほしい。

和田：入院により社会とのつながりが不確かな中、何か作るもので、人から感謝されたり、自分を大切にしたりというきっかけにしてほしいというのがあった。例えば、さをり織りがいい、革細工がいい、いろんな好きなことを見つけて、それを一生懸命する。それを共同作業する。人数が少ないときは、全員で、できるだけ子どもたちが意見を言えたり、協力し合えたりできるよう工夫している。自信のなさそうな子どもも、いざやるとなったら、自信を持てるようにとりくめたりしたことがあった。

校長 府立支援学校は、学習発表会、作品展等での自分たちの製品を買ってもらったりしている。支援学校の伝統や歴史と技術のつづきが、もともと教員にはあり、阪南マルシェがその延長で行っている。府立支援学校の教員は、どこかで同じような教育実践を実施している。将来的にはオンラインショッピングみたいなものを作り、退院した子どもが売れたことが分かるようにできればと思っている。

座長 羽曳野支援の役割、健康な子どもであればできることをもちろん保障する。健康なこともできないことも羽曳野だからできること、マルシェの取り組みのように自分が好きなことや得意なことが見つかっていくことができる場面もある。マンツーマン指導など多様な活動ができにくい場面もあると思うが、子どもからの発信などの工夫もされているように思う。

総合分教室の件は、分教室閉鎖により、子どもたちの学びの形が変わり、残念なところもあるが、他の分教室でも引き続き取り組んでいただければと思う。

## プロジェクトとの報告

### プロジェクト 1

不登校になりそうな子どもに対して羽曳野支援の教員が出張して支援、羽曳野市の適応指

導教室「ひまわり」(LIC はびきの内にある)で活動している。週1回30分程度、支援活動に充てている。

2学期7名、合計57回実施した。内容、チェックシート記入、事前面談、個々に応じた形で支援した。子どもに応じて様々な課題がある、視覚認知に課題がある、漢字に課題があるというような課題に応じて支援する。出張以外の曜日で「ひまわり」でどのようなアプローチが必要なのか、「ひまわり」の教員に対しても支援を実施した。子どもの様子の変化をお伝えして、地域の先生に伝えてもらう事もした。成果は沢山あり、数量感覚がつかめていない子どもに対してチェックシートを使って課題が見つかった例もある。取り組む際の得手不得手もあったりする。SST(ソーシャルスキルトレーニング)のスキルの学習を月1回1時間程度、実施、「あさがお(子育て支援センター、羽曳野市向野にある)」と合同で行っている。困り感を聞き取り、地域校の教員と共同で実施した。支援した後、後日SSTの内容として「ありがとうボックス」、「ありがとうミッション」、等を継続して取り組んだ。子どもが意識して取り組むようになったと言われた。児童・生徒が自分の課題を見つめるきっかけになった。3学期も引き続き実施する予定。

## プロジェクト2

今年度あらたなメンバーになったが、今年度は、昨年度に加えて何ができるかを検討した。GIGAスクール第2弾で 地域で何ができるか、運営委員会360度カメラの活用、府立学校支援教育研究会でも活用、eポータルサイト、学び文庫等を活用したり、ICTの教育現場での活用方法について、地域校との連携をさぐった。

改善点 周辺の音声をより明確に拾い、活用できるようになった。

前と後ろが全部映る、音声も全部拾うことができ、その場で会議しているように実施できる。滋賀とか茨城県対応を参考に、地域校の先生が困っている課題のサポートをしたりしている。本校にある設備について、機器の体験会も実施している。

紹介プリントの作成もすすめる。課題解決の提案や運用上のサポートを中心に進めている。依頼については、市町村教委経由でお願いしている。

座長 不登校支援、ICT活用どちらもあった。不登校の問題について地域の学校でも大きな問題になってきている。

まったく学校に不登校で来ていない子どもがいる。不登校のこどもにどのようなICT活用が考えられるか、検討課題である。地域の学校の教員と支援学校の教員の不登校に対する考え方や支援の方法は当然、違う。またそれぞれの立場からの意見を検討し集約することも必要、地域の学校へ訪問しさらに広げていただきたい。

校長 ひまわりに効果があったことは検証できた。ただもっと複雑な事情を抱えている子どもたちに対して、長期に取り組まないといけない事がある。それぞれにどのような支援スケジュールで調整をするかという事が大切だと考えている。週1回よりは、週2回、週3回のように短期集中でやって、効果が確認できれば、地域校の先生に残りの支援の部分を引き継ぐ形にしたいと考えている。  
どのようにすれば、子どもを中心に据えて、地域校と連携をとっていけるのか、望ましいやり方を検討したいと考えている。

前田 地域校と支援学校と違う立場からの視点も必要だと思う。

校長 協同作業をした後、できるだけ早く引き継いで渡すと地域校での負担も少なく済むかなと思う。

座長 学校間、保護者間の連携も今後必要になってくる。

亀田 いろんな特徴のある、ほんの少しのきっかけでかわっていく初めのステップが大切なんだと思った。医療とのかかわりをどうするのか今後もでてくる、社会に出ていくときに十分なのかどうか問う課題も出てくると実感している。

座長 不登校の子どもがまわりの子ども達と一緒に学びたいんだというニーズにどのような答えるかということで今後の進捗を楽しみにしたい。

岩田 学校教育自己診断

例年5月以降くらいからの実施を4月以降に変更して回収数を増やしている。

回収率が他の対象に比べて低かったところは、その要因を分析し、改善を考えていきたい。

(※以下、%以外の数字は、設問項目の番号を表す)

肯定的評価の推移、昨年度と比べて

児童生徒

昨年度より肯定的評価が5パーセント増 顕著

4パーセント増から 微増

4, 8, 9, 大きな増加

1, 2, 3, 5, 6, 7, 10, 11, 12 微増

8 番災害対策 5パーセント以上の情報

保護者

増加 1 4

微増 1, 2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 12, 13,

低下 1 1 7パーセント減少

医療関係者

増加 なし

微増 1, 4, 5, 8,

減少 2, 3, 6, 7,

教職員はすべての項目において、ほぼ高い

微増が1から14

低下 1 5 マイナス6パーセント

教職員の意見を取り込みながら、業務の改善組織改編につなげたい。

司会 第3回目については、2月27日（金）10時から実施予定です。

校長 3名の委員の出席でしたが、活発に討議していただき貴重なご意見をたくさんいただき感謝している。

今回本校の取り組みについての説明をしたので、次回以降に教育現場を直接見て触れ合えるような事も今後提供していきたいと考えている。